

キャリアアップ支援セミナー&異業種交流会

令和6年12月2日(月)、「くまモンからダイバーシティを考える」と題して、尚絅大学現代文化学部長の柳田紀代子様をお招きし、セミナーを開催しました。柳田先生からは、くまモン誕生の背景や「くまモン学」に関するお話に加え、熊本県職員としてくまモン担当課長を務められたご経験、熊本地震の復興シンボルとしてのくまモンと共に取り組まれた活動、さらには熊本県営業部長・しあわせ部長としてのくまモンの役割とその効果について、興味深いお話を伺うことができました。また、くまモンの活動が、人種・年齢・性別・国籍・価値

観などの違いを越えて、さまざまな人や組織とつながり、コラボレーションを生み出していることから、くまモンがダイバーシティの象徴でもあることを、具体的な事例を交えてご紹介いただきました。セミナー後半には、くまモンが登場し、友人のしめねっこと一緒に「くまモンダンス」を披露してくれました。会場は大いに盛り上がり、参加者80名が笑顔で楽しいひとときを過ごしました。

セミナー終了後には、地元企業、島根県、松江市の関係者の皆様にもご参加いただき、「第3回異業種交流会」を開催しました(参加者28名)。柳田先生にもご参加いただき参加者同士が名刺交換をしながら、ワークライフバランスや女性活躍推進に関する情報交換を行いました。



柳田紀代子先生



©2010 熊本県くまモン



進路発見バスツアー

【中学生編】.....

令和6年12月15日(日)、中学生を対象とした「進路発見バスツアー」を開催しました。今回のツアーでは、松江工業高等専門学校および島根県立大学看護栄養学部を訪問し、学生や理系分野で活躍する方々からのお話を聞いたり、各校での体験活動を行ったりと、参加者にとって充実した内容となりました。

参加者は保護者を含めた29名で、SUN'IN Girlsのメンバー1名がアドバイザーとして同行しました。今回のツアーは「ちょっとずつ」「幅広く」学びの場を巡る半日コースで、参加者からは「自分の好きなことを学べる松江高専に行ってみたいと思った」「医療系について、栄養も看護も両方魅力的だった」といった感想が寄せられ、進路選択の一助となった様子がうかがえました。保護者の方々からも好評をいただきました。

【医療編】.....

令和7年3月5日(水)、高校生を対象とした「進路発見バスツアー(医療編)」を開催し、島根県立大学看護栄養学部および島根大学医学部を訪問しました。島根県立大学では、看護分野においてバイタルサイン測定の体験を、栄養分野では摂食嚥下障害の緩和に役

立つ「とろみ食」の調理と試飲体験を行いました。その後、参加者は4つのグループに分かれて、学生との交流会を和やかな雰囲気の中で実施しました。

続いて訪問した島根大学では、キャンパス内の各施設を見学しました。今回のツアーには、保護者を含め37名が参加し、SUN'IN Girlsのメンバー6名が案内役を務めました。大学生と高校生によるトークセッションでは、「進路決定のタイミング」「受験勉強の量」「学生の海外留学や地域貢献活動の実態」など、活発な意見交換が行われました。

精力的に学ぶ大学生や教員、研究者の話聞き、体験活動を通じて学びを深めた丸一日のバスツアーとなり、参加した高校生からは「医療系の2つの大学を比較できたことが進路選択に役立った」「刺激を受けた一日だった」といった感想が寄せられました。



「ダイバーシティ+インクルージョン=平等？ ～だれもが尊重される社会を目指して～」 (第105回拡大版さぼっとカフェ)

令和7年1月21日(火)、「ダイバーシティ+インクルージョン=平等？～だれもが尊重される社会を目指して～」と題し、神戸大学インクルーシブキャンパス&ヘルスケアセンター ジェンダー平等推進部門コーディネーターのALEXANDER Ronni先生によるオンライン講演会を開催しました。当日は、島根大学や米子高専をはじめ、27名の参加がありました。

先生からは、ダイバーシティには無限の可能性がある一方で、実現にはコストが伴うため、何を優先するかが重要な課題であることが示されました。また、「普通」は一つではなく、多様な価値観が存在し、社会全体の価値観や考え方が変化するには長い時間と継続的な努力が必要であることなど、示唆に富んだ内容をお話いただきました。



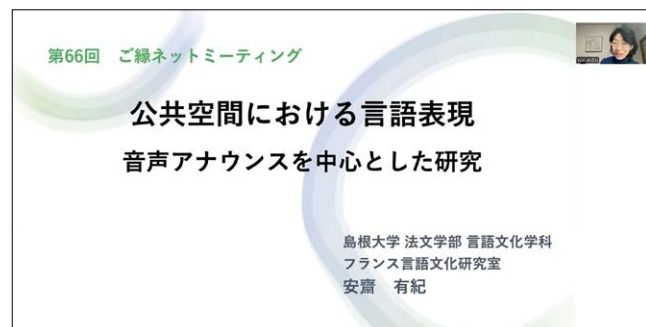
SAN'IN ご縁ネットミーティング

分野を超えた研究ネットワークの構築や、研究アイデアのひらめき、新たな共同研究の創出につながる「場」づくりを目的として、「ご縁ネットミーティング」を開催しています。このミーティングでは、メンバーが自身の研究を中心に話題を提供し、それをもとに参加者同士でディスカッションを行うことで、学び合いながら交流を深める企画を実施しています。

第66回「公共空間における言語表現：音声アナウンスを中心とした研究」

【日 時】 令和6年11月26日(火) 12:10～13:00
【講 師】 島根大学法文学部 安齋有紀 准教授
【参加者】 13名

道路、公園、公共交通機関、商業施設など、不特定多数の人が利用する空間には、様々な種類のメッセージが存在します。今回はフランスの交通機関の音声アナウンスの事例を中心に、社会情勢に合わせた表現の変化について紹介いただきました。



第67回「空き家を活用した福祉施設に関する研究」

【日 時】 令和7年2月27日(木) 12:10～13:00
【講 師】 島根大学総合理工学部 三島幸子 助教
【参加者】 24名

近年、空き家が大きな課題ですが、カフェやホテル等様々な施設に活用する流れもみられます。一方、空き家を活用した高齢者や子ども向けの福祉施設も増加傾向にあります。今回は空き家を活用した高齢者福祉施設の事例を紹介いただきました。



刊 行 物 紹 介

SAN'INダイバーシティ推進ネットワーク年次報告書

令和5年4月1日から令和6年3月31日に行った、SAN'INダイバーシティ推進ネットワークの活動をまとめた年次報告書を作成しました。SAN'INダイバーシティ推進ネットワークホームページ/刊行物・資料/データ資料・報告書に掲載していますのでご覧ください。

(掲載場所)

[https://diversity.shimane-u.ac.jp/_files/00366274/ 5 SANIN.pdf](https://diversity.shimane-u.ac.jp/_files/00366274/5 SANIN.pdf)



「提言書の実現に向けて」 （ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（調査分析）情報共有フォーラム）開催

令和7年3月17日（月）、情報共有フォーラム「提言書の実現に向けて」を開催しました（参加者：対面30名、オンライン22名）。広島大学と島根大学は、令和5～6年度の2年間にわたり、地方大学における女性研究者支援のあり方について共同調査を実施してきました。当日は、両大学から事業概要の説明と提言書の紹介が行われました。続いて、「海外大学におけるグッドプラクティスから～地方大学ができること～」と題し、タスクフォースメンバーより、調査対象国（アメリカ・スウェーデン・ドイツ・韓国）における先進的な取り組みについて報告がありました。その後、本学で実施した「ダイバーシティ推進のための学内アンケート」の結果をもとに、男女間の認識に差が見られる点について説明があり、「提言の実現に向けて、今できる最初の一步」を考える意見交換会を行いました。意見交換では、対面参加者は3～4名の小グループに分かれて、オンライン参加者はブレイクアウトルームにて議論を行いました。短時間ながらも、「すぐに取り組めることがある」「新たな課題に気づけた」など、活発な意見が交わされ、有意義な時間となりました。

今回の意見を踏まえ、提言書の内容をさらに充実させ、広島大学・島根大学という地方大学から、日本全体へと女性研究者の活躍を促進する取り組みの輪を広げていきます。



公開授業「ジェンダー～性を科学する～多様な性と生」

令和6年12月20日（金）、保健管理センターとダイバーシティ推進室の共催により、「ジェンダー～性を科学する～多様な性と生」と題した公開授業を開催しました。当日は、当事者である佐藤みどりさんを講師にお迎えし、ご自身の経験を交えながら、多様な性のあり方についてご講演いただきました。通常の受講生220名に加え、公開授業として事前申し込みのあった7名も対面で参加し、性に関する科学的な視点と多様性への理解を深める貴重な機会となりました。



島根大学公開授業
 >ジェンダー～性を科学する～
多様な性と生
 12月20日（金）
 13:00～14:40
 島根大学大学ホール
 定員 50名
 プロフィール：松江在住、LGBT当事者、元警察官、現在はさまざまな仕事によりLGBT理解普及活動を行っている
 メッセージ：堅固い意識をなく、一歩に踏み込み、自分自身について考える時間が作られればと思っています。お気軽にご参加ください。
 講師：LGBT理解研究講師 佐藤みどり 氏
 申込：https://forms.office.com/r/biTEqa7dEP（申込締切：12月16日）
 主催：島根大学松江保健管理センター・ダイバーシティ推進室

公開セミナー

「少子化とジェンダー平等：地域間格差を考える」

令和7年1月22日（水）、広島大学ミライクリエにて、広島大学・島根大学共同事業「地方における理工系女性研究者が働きやすく働きがいのある研究環境づくりのための調査分析」主催による公開セミナー「少子化とジェンダー平等：地域間格差を考える」が開催されました。対面で46名、オンラインで32名の参加がありました。セミナーでは、国際連合大学の白波瀬佐和子上級副学長を講師にお迎えし、人口構成や出生率の推移、世界におけるジェンダーギャップの現状などについて、分かりやすくご講演いただきました。

ジェンダーについて語る会を開催

令和7年1月7日（火）、「ジェンダーについて語る会」を開催しました。ダイバーシティ推進室では、令和6年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型・調査分析）の一環として、教職員を対象にジェンダーに関する意識調査アンケートを実施しました。今回の会では、その結果をもとに、島根大学におけるジェンダーギャップの現状や、今後の取り組みについて意見交換を行いました。当日は8名が参加し、日常業務の中で感じているジェンダーギャップの実例や、ジェンダー平等の推進に向けて経営層・管理職層へのさらなる働きかけの必要性など、活発な意見が交わされました。今後も、ダイバーシティについて気軽に語り合える場を継続的に設け、参加者の声を今後の活動に反映していく予定です。



学長と女性教員との懇談会を実施しました

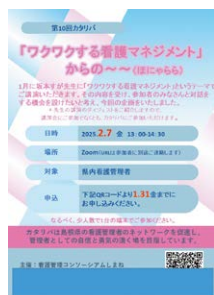
令和7年3月3日（月）の昼休みに、大谷学長と女性教員との懇談会（ランチミーティング）を初めて開催しました。当日は、理事・副学長に加え、8名の女性教員が参加しました。参加者からは、ご自身の抱える課題に加え、周囲の教員が産休取得時に直面した困難な状況などを踏まえ、大学としてどのような対応が求められるかについて、活発な意見交換が行われました。短い時間ではありましたが、学内でも普段なかなか顔を合わせる機会のない他部局の教員同士が、研究分野の話などでも交流を深める場ともなり、「今後もこのような女性教員同士の交流の機会を設けてほしい」との要望が寄せられました。



看護管理コンソーシアムしまね「第10回カタリバ」

第10回カタリバを2025年2月7日（金）に実施しました。看護管理者のネットワークづくりのため看護管理コンソーシアムしまねを設立し、看護管理者の学びと活力を得るために活動を支援しています。その事業の一つとして、「カタリバ」は島根県の看護管理者間の語りを促し、管理者としての自信と勇気の湧く場を目指した活動です。

今回のカタリバテーマは、「ワクワクする看護マネジメントからの〜（ほにゃらら）」でした。カタリバに先立って、1月21日（火）に開催された東京医療保健大学副学長・元日本看護協会会長の坂本すが氏による講演会「ワクワクする看護マネジメント」を聴講し、その講演会を経て参加者同士でワクワクについて対話することを目的としていました。オンライン開催で、5施設16名の方にご参加いただきました。参加者からは、肯定的な評価を得、「他の施設の看護管理者の方と一緒に語り刺激を受けた」「他施設の皆様との対話での学びは非常に大きい」「語りって素晴らしい！」などの感想をいただきました。



高専GCON2024で最優秀賞を受賞

令和6年12月14日（土）、15日（日）、日経ホール（東京千代田区）にて開催された第3回高専GIRLS SDGs x Technology Contest（高専GCON2024）の本選に、本校の1チームが選出され、審査の結果、「文部科学大臣賞（最優秀賞）」と「東京エレクトロン賞」を同時受賞しました。本コンテストは、女子学生中心の2～5名のチームがSDGsを中心としたさまざまな社会課題の解決に向けた技術開発、アイデアを提案するものになります。本校の出場チームの発表テーマは「ドローン×AI動作解析によるスポーツ競技力向上アプリの開発」で、審査委員からは「直ぐにでも実用化できるのでは」との高い評価も頂くことができました。本コンテストには全国高専から85チームの応募があり、その中から書類審査と面談を経て選出された12チームが本選に進みました。そして、本選では最優秀賞（文部科学大臣賞）1件、優秀賞2件、その他各賞5件が表彰されました。



校長と教職員との育休・産休に関する懇談会を開催

令和7年3月27日（木）、校長と教職員の「産休・育休に関する懇談会」を開催しました。懇談会には、校長、教務主事、学生主事、寮務主事、男女共同参画推進室長を含めて教職員11名が参加しました。懇談会の趣旨は、教職員の産休・育休に関する情報共有、制度理解と問題提起、男性教職員の育休取得促進等であり、育休取得経験のある男性教員による実体験の紹介から始まり、育休に入る前に準備したこと等について、詳しい内容の発表がありました。その後のフリートークでは、第一子の出産を控えている男性教員から育休を取るための相談があり、育休取得経験のある教員からのアドバイスや情報共有をすることが出来、大変有意義な意見交換の場となりました。

職業としての「高専教員」を紹介する講演会を開催

令和6年11月28日（木）、本校学生を対象に、職業としての「高専教員」を紹介する講演会を開催しました。この講演会は、「研究職」を志す学生に高専教員という職業に興味を持ってもらい、博士課程への進学を含めたキャリア形成の一助とするために開催したものです。講演会では、電子制御工学科中西大輔准教授から、中学・高校教員と高専教員の違い、大学院を進学した動機、大学院での学生生活の様子、現在の教育・研究活動等についての講演を、人文科学科服部真弓教授からは、「女性研究者・技術者講演会」と題して、高専に着任した経緯や自身の研究内容等についての講演がありました。また、人事・労務係担当者から高専教員の給与と休暇等の制度に関する説明も行われました。当日は9名の参加者があり、「曖昧だった博士過程について知ることができてとても参考になった。」「高専の先生という仕事により興味が湧いたので自分でも調べてみようと思いました。」といった感想が聞かれました。



令和6年度松江テクノフォーラム企業紹介

「ダイバーシティ推進特設ブース」にて女性研究者・技術者の活動紹介を実施

令和6年12月13日（金）に開催された（一社）松江テクノフォーラム主催の「令和6年度企業紹介・ダイバーシティ推進特設ブース」において、企業2社から女性研究者・技術者の活動紹介が行われました。当日は22名の参加学生に対して、企業と連携し女性研究者・女性技術者のロールモデルが提示されました。



令和6年度ダイバーシティ研修会を開催

令和7年2月26日（水）に、令和6年度ダイバーシティ研修会を開催しました。この研修会は、本校教職員のダイバーシティに関する理解を深め、本校でのダイバーシティ推進の機運向上に結び付けることを目的に毎年開催しているものです。今年度は、株式会社ベネッセホールディングス常務執行役員 成島由美氏を講師にお迎えし、「今 この時代に必要な教育～人生100年時代を生き抜くために～」と題して、日本における環境面や経済面の課題及びその背景、子ども・若者の現状・意識及び課題、教育現場の現状やダイバーシティ促進につながる教育、理系女子の育成など、企業における取組や私立女子中学高等学校での学校改革の経験を踏まえた幅広い内容の講演がありました。当日は45名の参加者があり、「ベネッセや私学の取り組み、また、最近の子ども達の進路選択に関する意識を知ることができて有意義でした。」「教育におけるダイバーシティについて考えるよい機会になりました。」といった感想が聞かれました。

